

■令和5年度第4回高田地域まちなかにぎわい創出協議会 開催記録

日 時：令和5年12月7日（木） 18:30～20:30

場 所：会津会津美里町役場 2階 大会議室

出席者：10名／18名

事務局：5名

1. 開会

（副委員長）

本日は、委員から意見をいただいた先進事例を参考にしながら、たたき案を叩くのがメイン。よろしく願います。

2. 委員長挨拶

（委員長）

特別な挨拶は省略させていただく。資料の順序に従い、皆さんご検討よろしく願いたい。

3. 前回までの振り返りと本日の流れ

・前回までの流れと会津西陵高校へのアンケート結果

説明（事務局）

皆さんから若者の意見を聞いた方が良いという意見をいただき、会津西陵高校の全生徒を対象に、高田地域の中心市街地に関する Web アンケートに協力していただいた。全校生徒数が 287 名、先生が 36 名。うち、回答が返ってきたのは、生徒が 172 名、教職員が 6 名。回答率としては 55% で、半数以上が回答。主な回答者は 1 年生及び 2 年生。ホームルームの時間に回答していただいた。（3 年生はテスト期間中で回答できていない可能性あり。）

重点部分は下記のとおり。

- ・問 4：「現在の高田地域の中心市街地についてどう思うか」＝「にぎわっていない」が半分以上。
- ・問 5：「にぎわいは必要か」＝「必要」が 8 割。
- ・問 6：「どのようなにぎわいが必要か」＝「趣味や娯楽を楽しむにぎわい」が一番高く、次に「買い物客によるにぎわい」。
- ・問 7：「にぎわいに空家や空きスペースを活用する場合、地域に必要なもの、施設、機能は何か」＝「中・高生が集まり飲食や勉強・読書ができるスペース」「世代を超えて趣味や娯楽が楽しめて座ってくつろげるカフェ」がそれぞれ 16% で突出。学生は居場所がなく、学校以外の居場所、サードプレイスがほしいということが伺える。
- ・問 8：「にぎわった場合、何が心配されるか」＝「ゴミのポイ捨て」や「騒音」。
- ・問 9：「旧高田公民館跡地の利活用として望ましい役割・機能は」＝「飲食店もしくは複数の飲食店が集まるスペース」「座ってくつろげるカフェ、オープンテラスやマルシェができる施設」「公園」の 3 つがそれぞれ 13%～14% で上位。
- ・問 10：「人が交流するにぎわいをつくり出すために大切だと思うのは何か」＝「人が集まり、交流するきっかけとなる機能、施設の維持」が 7 割。

- ・最後に自由意見を書いていただいた。
- ・今の高校生は、居場所を求めているということがアンケートから見受けられる。

・本日の目標

説明（事務局）

これから2回目の町民アンケートを実施予定。本日は、アンケートに掲載する方針を決定する。これまで協議会で検討して来たことを踏まえ、高田地域の中心市街地と公民館跡地をどうするか、町民に対して真意を取るアンケートにしたいと考えている。

本日決めていただくたたき台について、ワークシートを配布資料に添付している。私たちが今取り組んでいるのは、商店街エリアと、それを強く推進するための高田公民館の跡地の利活用。この二点について町民にアンケートをとる場合、ある程度幅を持たせて選択してもらうため、できれば3パターンほど選択肢を用意して真意を取りたいと考えている。ワークシート内にキーワードを記載したが、これは今までこの協議会で皆さんから出していただいたアイディアを書き出したもの。全て盛り込むことは難しいが、なるべく思いを組んで入れていきたい。

たたき台の一つ目として、商店街エリアについて、案を4パターン記載した。

たたき台の二つ目として、公民館についても、案を4パターン記載した。

これらのパターンが正解ではなく、皆さんにも自身の考えで案を出していただきたい。

これらを叩いていくことで、アンケート案の設定内容が固まると考えている。

4. 協議事項

・先進事例の紹介 国見町「アカリ」、大田原市「えんがお」

説明（事務局）

委員からいただいた情報の中で、国見町のコワーキングスペース「あかり」というところがある、建物をリノベーションして使っており、コワーキングスペースやフリースペースがある。無人営業で、飲み物やお菓子などの会計はガチャガチャのようなもので支払う。このように人件費を削減し施設の維持管理を安くするというのも一つの工夫であると思う。レストランも併設されている。

次に、別の委員から情報をいただいた「えんがお」という大田原市の社会福祉法人の取り組みについて動画で紹介する。

～動画紹介～

「えんがお」がどのような団体かということ、徒歩二分圏内にある7件の空家をこの法人が借り上げて、フリースクール、サロン、グループホーム等として運営し、空き家の活用を図りつつ、地域の高齢者や若者の居場所を提供し、ビジネスにして存続させている。もちろん行政の支援も入っていると思うが、それを民間の主案で行っている。高齢者が亡くなる時に、一人にさせず、地域で守っていくという柱があって、そこに共感する若者など、地域を巻き込んでこの地域を盛り上げて行く。施設を運営する時の問題として稼働率があるが、体育施設だと、昼間はあまり使われず夜しか使わない。しかし、この「えんがお」の方法だと、昼間は高齢者の方が来て夜は若者が使うということで、空いてる時間が生じないように、全ての世代が活躍できるような方法で、この空き家を利活用している。

これも一つの方法ということで、参考に動画を見ていただいた。このモデルが会津美里町に当てはまるかどうかも考えていただきながら、真似できるところもあると思うので、会津美里町だったらどのようにできるか、方針の考え方に取り入れていただければと思う。

- ・ 個人で、にぎわいづくりのプロトタイプを1つ考え出す

①高田地域中心市街地エリア ②旧高田公民館跡地

- ・ 事務局が用意した「たたき台」をたたく
 - ・ 委員から提出された「たたき台」をたたく
- その中から3つに絞っていく

説明（事務局）

冒頭の説明のとおり、本日はアンケートの方針を決めて行きたい。高田の商店街と旧高田公民館跡地について、自分だったらどのようににぎわいを創るとか、自分だったらどのようにしていくかというのを考えていただきたい。まず10分間、ワークシートを使って自分の考えを書き出す個人ワークをしていただく。

～個人ワーク（10分）～

①高田地域中心市街地エリア

質問（事務局）

それではまず、商店街エリアについて考えを伺う。これまで皆さんから出た意見を踏まえ、たたき台の一つ目として4パターンをつくってみた。例えばパターン2は、誰が：民間、誰を：小中高生、何のために：サードプレイスをつくるために。勉学はもちろん、アウトドアスポーツなどの講習を住民から募り、身体教育の場としていく。この核は何かというと、サードプレイスをつくるという方針。これをつくるためにはどうするかというように考えていただきたい。皆さんはサードプレイスの意味を知っているか。

意見（委員）

わからない。

意見（委員）

家や職場や学校ではなく、関わりがない人が居られる場所というか、自分の別の居場所のような感じだと思う。

質問（事務局）

第三の場所と言う意味である。サードだから、三。家や職場や学校以外の自分の居場所。自営業の方は家と職場が一緒。そうすると、自分がその他にほっとできる場所というのは、どこになるか。

意見（委員）

昔は会津若松市内まで飲みに行っていたが、今は私生活を見直して、朝晩にウォーキングをしている。それでストレス発散するようにして、頑張っている。また、道路向かいに倉庫があり、その二階で読書したりする。

質問（事務局）

まさにそのような自分がほっとできるような場所が、皆さんにもあると思う。そのような場所を商店街や中心市街地の中につくれないかということだが、先ほど説明した通り高校生

の居場所がないということもあり、高校生が来やすいような環境をつくれば、高校生も授業が終わったら、待ってられる場所もなく学校にたむろしているのではなく、地域に出てくるのではないか。

皆さんは、高校生はどうしたら来てくれると思うか。

意見（委員）

高校生は、やはり広いスペース。本日も雨の中濡れて歩いている高校生が何人もいたので、待ってられる場所とか、そのようなものがあれば。

質問（事務局）

少し休めるような場所であれば、町の空いてるところも利用できるし、高校生の居場所をつくれる。

子どもの居場所というと、他にどういうことが考えられるか。

意見（委員）

子どもは管理されるのが一番嫌だと思う。そのような部分では、あまり規制のないスペースが大事だと思うが、行政が携わると、どうしても本来の目的より管理という部分にいつてしまうところがあるので、小さい子は難しいが、子どもたちがある程度自由にできるスペースがあればいいと思う。

昔、公民館には談話室というところがあり、自由に使わせて、使用料も何もない。ただ声だけかけてもらうというような形で、申請もいらない。そうしてできるだけ規制をかけない形でやっていた。高校生も結構来ていたし、小中学生も来ていたので、そのようなスペースが必要なかなと思う。

質問（事務局）

高校生のアンケートの中に、「スペース」という回答があったが、「公園」も多かった。公園というのは、いつ、誰が行ってもいい場所で、まさにこの管理されないという点も入っている。うるさくしたりすると、怒られたり出禁になったりもすることがあるので、全く人目を気にしないで遊べる場所というのは、この町にはないかもしれない。

学生は、どういう環境をつくってあげれば自ら進んで来てくれるか。

意見（委員）

空いている時間は勉強したり喫茶店に行ったり、それぞれ自由なことをするので、管理されないというところに近いとは思う。

ただ、学生なので、どんちゃん騒ぎする時はあるし、そうなってきた時にいわゆる行政直下で管理すると色々なしがらみが出てくるので、俗に言う指定管理者や第3セクターのようなものであったり、ある程度しがらみのないところが管理するのがいいような気はする。基本的に若者はそれぞれの人生があってそれぞれの進路や目的があるので、それに従って自由に動くのではないかと思う。もっと小さい子どもの話になれば、前回も言ったが、神社や駄菓子屋などがあるといいと思う。

質問（事務局）

フリースペースだからいいということではなく、つくる理由も必要だということか。

意見（委員）

昔は一回家に帰ってランドセルを置いて、それからどこかに行くって形なので、そのような場であった方がいいのかなと思う。

質問（事務局）

学生にとらわれず、まちなかのスペースを色々な人が来られるようなスペースにすることが必要だと思う。居場所が必要だということ。高齢者の居場所の場合には、さっきの「えんがお」のようなやり方がいいと思うが。

意見（委員）

この考え方をする時に一番大事なのが、「居場所をつくりましょう」という考え方が駄目だと思う。「居られる場所をつくる」のである。

質問（事務局）

環境だけ整えるということか。

意見（委員）

そう。だからしがらみという話になる。居られる場所があればそこに行きたい人が行って居場所になる、という考え方の方が、より自然になる。

「えんがお」のように、おじいちゃんおばあちゃんの誰かがいて、ありがとうと言われて嬉しかったという自己承認というか、自分を認めてもらえたというその環境さえあれば、わざわざ規制しなくてもいけるのではないかという気がする。

どうしたら学生が来るかと言ったら、もしここでカフェやフリースペースをやるのであれば、学生にデザインしてもらうのが早い。

意見（事務局）

いいですね。当事者がいるのが一番いい。

意見（委員）

学生と同じ目線で物をつくっていくと、自然と自分たちが集まるし、どんどん世代が変わってくると自分たちで改造もしていけるので、そのような場所はやはりあった方がいい。

もう一つが、人間の生理現象でトイレというのが必ず必要。マルシェをやってもトイレがないという話がある。ましてやオストメイトや人工肛門の人間のトイレは全然ない。そのようなところに配慮していかないと、全員が居られる場所はつくれないと思う。

あえて点在させて、マルシェをやった時はそこを授乳室にしてみたり、トイレが自由に使えるりとかというような場所になるといい。

質問（事務局）

点在させた方がメリットになるか。一ヶ所に集めるよりも。

意見（委員）

なるのではないか。跡地の方じゃなくて、まちなかの方では。

説明（事務局）

資料の中で、エリアに網掛けをしているところが空いてるところ。使えるかどうかわからないが。環境までつくって、世代で交流して、承認欲求を満たしてあげれば、自然とルールも守るだろうし、ということか。世代間交流の、「えんがお」のような機能をこの場所で行く。

意見（委員）

この施設で、敢えて分けているので失敗した。隠れてタバコを吸うような素行不良の子たちは、端っこに行ってしまう。でも、必ず同じスペースにいないといけないとなると、約束を破るような子は入ってこないはずなので。そのようなところもメリットになる。

意見（委員）

そのようなところに、色々な高校が商品を販売したりカフェをやったりする、学生に設備

を与えて学生たちが職業体験のような感じで自分たちで商品を開発したりする、そのようなスペースがあって、それをどんどん繋げていけば、居場所的なものもできると思う。

質問（事務局）

自らがその中の人になってやってもらうということか。

意見（委員）

そう。やってもらうばかりではなく自分たちで考えて提供できるような形。カレーを作ったり缶詰を作ったり、今は色々な高校でやっている。そのような有志を集めて、学生を主体としたお店にして、徐々に継続してやっていけるような体制を整えられれば、居場所的にも集まって来るとし、いい意味で滞在できるのでは。いい時間の使い方になるし、それがまた色々な違う波及になってくると思う。

意見（委員）

先ほどの管理について、誰がやるのかというところに着目すると、事例の映像からも見受けられるように、やはりある程度若い方がいいと思う。

例えばそこに集まろうとした時に、私のようにスーツを着たものがいけば、子どもたちは入りづらい。おじいちゃんおばあちゃんも若者であれば孫のように接することができるというところでは、若者がリーダーになって、その施設を管理していくという流れの方がいい。そうすると子どもからお年寄りまで入れるスペースがつかれるというところで、世代交流というのが実現してくるのでは。

スペースをつくるというところになると、映像からも見受けられたが、やはり飲食は必ずついてくると思った。その飲食についても、例えば子ども食堂のように提供するのか、それともお金をしっかり取って事業としてそのスペースを活用していくのか。その流れについては、最近NPO的な考え方も薄れている中では、やはり飲食代を取って、子どもたちがカフェを望むのであればそういったメニューを揃えて、という形にしないと、長居できない部分もあるというのを感じた。

意見（事務局）

やはり長く続くにはお金も必要なので、ある程度維持管理できるぐらいのお金を取った上でやるということか。

質問（委員）

今回、誰をという対象は、学生に絞るということか。

回答（事務局）

今の段階だと学生だが、世代間交流となると高齢者も対象になるので幅が広がって行く。今の段階で注目しているのは、とりあえず学生。第3回目の協議会で、ターゲットは学生に絞った方がいいという意見も出て、ワークショップの中でも、70代の方がこれからは若者がということで、でも自分たちも参画はしたいと。それをうまく活かすには交流ということで、ハブ機能に若い管理者を置く。ただ、これを回せる人材がいるかというのも課題。

質問（委員）

この前のあやめまちかどマルシェはすごくにぎわっていたと思うが、今後、ああいうことをすることで何を期待しているのか、また反省点などを伺いたい。

意見（委員）

6月のあやめ祭りと一緒に開催した時のマルシェだが、あやめ祭りはいつも伊佐須美神社ばかりがにぎわっていて商店街は違う町みたいという声があったので、何かできないかと考

えていたところ、伊佐須美神社から商店街まで繋がる通りにお店があったら歩いてくれるかなという思いから始まり、商店街周辺の色々な方たちに声をかけたらほとんどの方が場所を貸してくださったり、協力してくださる方が増えて大きくなった。

今後は、ああいうことをやれば人が来てくれるというのがわかったので、大きい規模ではなくても、定期的に月1回でも何かそういったものがあれば、自分たちも何かやろうという人も増えるのではという思いがある。この場所を利用してみようかなとか、スペースを使えるなら何かやってみようかなとか、そのような人が増えたらいいなという思いはある。規模が大きくなると交通安全の面など運営は大変だが、規模がそんなに大きくないのであればできるのかなと思う。

意見（委員）

今の話の中で、運営という部分では、学生向けということであれば規模はそんなに大きくなくても大丈夫ということか。

意見（事務局）

規模よりも、何かやってるということを続けていく事の方が大事。それが難しいのだが。

意見（委員）

今回、私がワークシートで考えたのが、「短期的なにぎわい」・「中長期的なにぎわい」・「一時的なにぎわい」という部分。学生をターゲットにすると、やはり短期的ではなく中・長期的なにぎわいになると思うが、学生のたまり場というのは重要だと思った。

質問（事務局）

日常的なものもそうだが、その中で、月一回は非日常のイベントがあって新しい人を呼ぶというような視点も大事だし、学生がそのようなことをやっているのであれば自分も何かやってみようと思うかもしれない。

学生のスペース・居場所をつくるというのは、こちらから意図的につくるのではなくて、環境を整えて中身を自分たちでカスタマイズさせるようなものを用意すれば、あとはそこ回す人がしっかりいればできるのではないかというのが、ある程度見えたと思うが、どうか。

意見（委員）

高校生ということを考えると、物理的に、電車待ちの高校生というのは居場所が必要な子たちだと思うので、下町の方でできれば駅に近いところがいいだろうと思う。高校生のアンケートに公園がないという意見があったが、6区のポケットパークなどには一応立派な屋根が三つもついている公園があるが、高校生の居場所としては反対側なのだろう。高校を出て、下町の方に行く方が、立地的には多分集いやすいのだろうと思う。先ほどの意見のように、何ヶ所かつくって点在させた方がいいということなので、集う場所は子どもたちが選べばいいことだろうが。

質問（委員）

例えば、マルシェに出店している方というのは、マルシェに出店していない時は何か飲食店などをやっていらっしゃるのか。

意見（委員）

そのような方もいるし、マルシェ出店だけという方もいる。

質問（委員）

高田駅の前に御田神社があるが、あそこに毎週違うマルシェの車が来るように頼めたりするのか。何月の何週間ここお願いできますか、というふうに。

意見（委員）

早めに言っておけば大丈夫ではないか。会津でも最近増えて来たので。

質問（委員）

おそらく、キッチンカーがあるだけで人は寄っていく。駅前の殺風景な公園も空きスペースも一緒に、敢えて飲食店というものを誰かが開業しなくても、飲食ができるスペースさえあれば、マルシェで料理をつくっている人に入れ替わりで入っていただき経営してもらおうというのは、難しいのだろうか。

意見（委員）

交渉次第ではないか。

意見（委員）

色々なところで祭りがある時期もある。例えば1月だと、出店屋というのは十日市なり十三市なり、色々な市があるので何日はどこに行くというのがもう決まってる人たちが多い。夏場もこの祭りがあるからここに行くが決まってる予定があるので、なかなか入れないというのが現状ではないか。

意見（委員）

ただ、交渉次第では、自分で物件を買って商売をやるよりは、そこでできるというメリットはある。

意見（委員）

条件さえ合えばそうである。

意見（事務局）

ただ、営業保証とかもあるかもしれない。

意見（委員）

高校生のアンケートで、スタバが欲しいという意見もあった。現実的に、高校生がコーヒー1杯500円、スイーツ合わせて1,000円を毎日買うかと言ったら絶対にそれはないので、少し格安のコーヒー豆屋さんのような人にこだわりのコーヒーを低価格で提供してもらおうとか、安いチェーンに入ってもらおうとかで、そこ発信で、高校生が自分の居場所や居やすいところに散っていくというようなイメージでもいいのかなと思う。

もう一つ、方法が違うが、「だいかい文庫」というのをやっている方がいる。この方は、自分の推しの本をそこに並べて欲しいと言って、1スペースヶ月2,400円で貸し出し、そこに自分の好きな本を入れてくださいというやり方をしている。その本棚のオーナーになるというイメージ。その本を読んでいってもいいし、買い取ってもいいというスタイルで、お金が定期的に入ってくる感じ。そこにカフェが併設されている。そのやり方でもいいが、農家が近くにあるのであれば、1スペースヶ月1,000円で借りてもらって、一ヶ月毎日ネギや里芋を入れていくとか、売上が自分に入ってくるというスタイルでもいいと思う。逆に、ふるさと納税のようなものに活用していく方法も、運営の仕方としてはあるのかなと考えていた。

意見（事務局）

低コストにする一つの方法として、こういうスペースのおばあちゃんとかおじいちゃんを見たらポイントをもらえて、店番をやってもらってもいいし、それを対価してもらおうという労働の機会にもなるし、みんなの役にも立つという。

グループホームかどこかで、朝に世話をする人がいないので学生の賃貸料を安くする代わ

りに世話人をやってもらうという方法もあり、それだとどちらも WIN-WIN になる。

一つの案だが、それに会津コインのような地域通貨やポイントを使えば、それを血液として回せるのではないかと思っている。そうすると、自分がしたいことを評価されて、コーヒーも一杯飲めると。それがこの場所でできたら、行ってみようかなという気持ちにさせられるのではないかと思う。そのコインが色々な所で流通すればやっていけるのではないか。

意見（委員）

昼にカフェをAさんがやって、夜にBさんが酒屋やるような感じでもいいのかなと。

質問（事務局）

それこそタイムシェアである。全世代が我が事として考えて活躍できるような環境をつくることができればいい。それをこの町の中で、会津美里モデルでできないかというところ。

少しずつ見えてきたと思うが、今は学生がターゲットだが、学生ではないターゲットの視点がある方はいるか。

意見（委員）

私は学生ではない視点で考えていたのだが、短期的な解決方法ということで、まず考えたのが、有名店・人気店にどこかのスペースに入ってもらおうというのが一つ。にぎわいを最初からつくってしまうという方法で、そうすると、周りのお店も、人が通ってくれるなら自分たちも何か商売してみようかというような、そのような短期的な解決方法があるのかなという部分。あとは中長期的ということで、少しずつ始めながら育てていくという方法。あとは一時的ということで、マルシェ的なこと。

この三点について少し考えてみたところ、学生がターゲットだと、どうしてもお金を使わないで過ごせる場所になってしまうが、大人がターゲットということになると、お金を多少使っても行ってみたいと思えるようなお店を最初からつくってしまう。例えば七日町通りなんていうのも一つの例で、一つどこかがある程度盛り上がってきたら周りもどんどん作り始めて盛り上がっていくようなやり方に近かったのかなと思う。

意見（事務局）

有名店を持ってくるというのも一つの案である。元から有名で、クオリティも認知されているものなので。果たして有名店が来てくれるかという問題があるが。

意見（委員）

そのような問題があるが、そこを何とか交渉して入ってもらおう。

意見（委員）

私が高校生の時、電車を待つ時間は、冬はすごく寒かったので、できればやはり駅の近くがいいと思っている。そこでゆっくりできる場所、お金はあまりないので、自由に飲めたり休む場所だけ、屋根と暖房だけあればいいと思うが、そのような場所があるといい。

あとはやはり、誰でも利用できるレンタルスペースが欲しいという思いがある。自分のやりたいことが実現できる場所だと、新しい人の流れが生まれて、後々、挑戦して上手くいった人は事業者になってくれたり、商店街で職業体験をしたりというのでもできると思う。このエリアは家の造りがすごく特徴的で、間口が狭くて奥に長いというのが珍しく、そこを改修できるところは歴史資料館のように使えたらいいと思っている、そのような場所があれば、中を覗いてみようという気持ちはある。そうすれば伊佐須美神社から歩いてきて、歴史資料のある建物があればそっちにも行ってみようと思うし、そこでカフェがあつてここでしか食べられないものがあればそこで休んで帰ろうかなという気持ちにもなると思う。そこは町が

入ってやってあげないと駄目だと思うが。

質問（事務局）

レンタルスペースとは、何でもできる自分の空間か？

意見（委員）

チャレンジショップのような感じ。新しいお店が入っているとやはりそれに合わせて、若い方がやっていたら若い子が来てくれたり、年配の方でちょっとやってみたいという方がやってみたら友達や知り合いの方が来てくれたりなど、新しい交流が生まれると思う。

意見（委員）

レンタルスペースとは別に、レンタルボックスというのがある。12月の高田のマチミセマルシェで、高田の商店街の人たちだけではなく、他の地域の八百屋がネギを売ったり、本郷の木工屋さんが出店していたり、その商店街の場所を借りて、本郷や新鶴の人たちが自分たちのつくってるもの売っているということが結構あった。

普段は人が来ないからあまり魅力を感じないかもしれないが、人が来るとなれば、高田の商店街を利用して、自分の作品を置いて、売れた分だけもらって、お店に少しキックバックするような、そのような形もいいのでは。

商店街が高田の人のものではなくて、色々な人たちがそこを利用するというのが、12月のマチミセマルシェを見て、その可能性はあるなど感じた。

質問（事務局）

チャレンジショップやレンタルスペースで、品質のいいものや魅力のあるものを置けば、町民以外の方も来てくれるということか。

意見（委員）

一番は、最初に実現したいのが、私はやはり町内の交流だが。

質問（事務局）

そろそろエリアの方について三点にまとめたい。学生を呼び込むような仕組みをつくるということで、学生に一問を使いたいと思う。二問目が、世代間交流となるところをつくるということ。三問目は、外の視点ということで、レンタルスペースとかチャレンジショップとこのをやってそのスペースを利用するということ。

ほかにタイムシェアという考えはどうか。昼・夕方・夜、異なる属性の人々が入れ代わりでその一つの場所に行くというようなやり方はいいと思うが、その考え方はどうか。

意見（委員）

いいと思う。

質問（事務局）

そうすると、経営者がずっとその場所を借りなくても、三つに割ったりもできるのではないかと思うが、金融の観点ではいかがか。

意見（委員）

時間できっちり分けてというのはなかなか難しいと思う。よほど広い建物を作らないといけないと思うし、だったら若者ならば若者向けにってしまった方がいいような気もする。それだと狭まってしまうところなんだろうが。

質問（事務局）

了解した。学生と世代間交流というところで、アンケートを書いてみたい。高田エリアについて、他に意見があれば。

意見（委員）

世代間交流については、せっかく色々な良い技術を持った高齢者がいっぱいいるので、縄を結うとか、俵を何日かかけて少しずつ講習しながらつくとか、会津の郷土料理の講習会をすとか、そのようなことをやりながら興味を持たせて、地元に残ってくれるなり、そのようないいものがまた発展して特産物ができるかもしれないし、お金はもちろんかかるようにはなってくると思うが、伝統の継承ということで、講習会のようなことができないかと思う。いいもの再発見のような。子どもたちも、今までやったことがないようなことをやるのも面白いと思う。

意見（委員）

喜多方市などはそのようなのが結構盛ん。伝統工芸や、最近はアートに力を入れたりなど。

説明（事務局）

エリアについては、以上を踏まえ三点書いてみて、皆さんに文書で案を送るので、それに回答をもらうような形にしたい。

②旧高田公民館跡地

説明・質問（事務局）

次に、旧高田公民館について、3000 平米の跡地の活用をどうするか、具体的に絞って考えていただきたい。できることとできないことがあるが、今の段階ではこれは無理だという制約をつけずに考えてほしい。

資料のたたき台の2について関心があるところを聞きたいが、パターン1の方はいるか。全天候型フリースペース、私が思うに、四隅に大きい鉄柱を立てて、雨が当たらないように覆うドーム球場みたいなもの。3,000 平米だと駐車場はなくなってしまいが、天候を心配する必要がなくいつでもマルシェやイベントができる。3,000 平米なので広いようでそれほど広くはない。なので、ある程度絞る必要がある。

質問（委員）

このパターンの中から選ばないといけないのか。

回答（事務局）

提示したパターン以外に自分の考えがあれば伺いたい。

意見（委員）

一つは、農家と商店街がタッグになる。和歌山の事例だと思うが、農家が運営する直売所のような感じ。

質問（事務局）

ファーマーズマーケットか。

意見（委員）

そう。地元の農家が1億円プレーヤーになるのではとされているような市場の開拓の仕方だが、その事例では近くに牧場か何かがあるところにつくったようで、牧場に行った人たちが帰りにみんな寄っていく。その仕組みを、伊佐須美神社を拠点にできないかという考え方。それはこの場所が適切なのか、あやめの湯の方がいいのか、わからないが。

また、新潟のビッグスワンの隣に「いくとびあ」という施設がある。子どもの体験型の施設と農協のような施設が一緒になっており、子どもを一日学ばせながらそこで買い物もできるというような場所。

もう一つが、これは大分福祉寄りになるが、新潟の長岡市に「子育て道の駅」という施設がある。ふらっと行って名前を書けば保育士さんたちが面倒を見てくれるようなスペースで、今週はマイナンバーの申請の写真を撮るなど、土日でも役場職員が来て、平日しかできないような業務を子どもと一緒にそこでできるようなイベントをやったりしている。

野菜を売るといった商業施設ではなく、子育て拠点。そこも全天候型で、砂場や、内壁を回るようなすべり台、バスケットコート等があり、結構面白い。

長岡市には3つくらいあって、会津美里町で言うと、本郷・高田・新鶴にそれぞれあるようなイメージ。

意見（委員）

この前、喜多方の「めぐぶらざ」に行ったら、こういうのがやはり必要だと思った。複合施設になると思うが、子育て世代が、子どもを遊ばせる・学べるというのがいいかもしれない。その世代が交流できると、また新しいビジネスにも繋がるので、子育て世代を少し優遇する施設がいいのかなと思う。子育てがメインの複合施設。野菜を売ってもいい。

意見（委員）

大変だと思うが、できれば、プール。会津はプールがないので、健康まちづくりも含め、プールプラス会場で休める総合施設のようなもの。そうすれば、子どもたちからお年寄りまで、会津全域で、通年使えるかと思う。

意見（委員）

プールはいいと思う。私も健康のためにスイミングを始めたいと思っている。チョコザップのような、スポーツができる場所。そして、サウナが欲しい。あやめ荘の方を活かして、日本一レベルの、小さくてもいいのでおしゃれでモダンなサウナがあればいい。

意見（委員）

立派な建物ではなくても、おしゃれなコンテナなどを並べて、休憩できたり、野菜を売ったりするスペース。前には、川みたいに水を流して噴水をつくれれば、観光客でも小さい子どもがいる方は立ち寄りやすいのではないかと。少しだけ水遊びできるような場所と、休憩スペースと、屋根付きのベンチがあればいい。

意見（委員）

公民館跡地の隣地の開発も必要だと思う。

意見（委員）

天海大僧正の像の写真を撮っている人が結構いる。それも何かに活かせるか。

意見（事務局）

あそこを生誕の地と謳っているから、あそこにあるから意味がある。

意見（委員）

おしゃれな感じにはなりにくい。

意見（事務局）

毎月天海の服が変わるなど。会津木綿で服をつくる。

意見（委員）

夢がなくして申し訳ないが、あのスペースだと駐車場だと思っている。なぜかというとな、今回のまちなかマルシェもそうだが、よほど魅力がなければ、遠くに車を止めて歩こうとは思えない。それだけの魅力をこれから徐々につくり出していくのか、それともやはり、近くに駐車場があるから気軽に行ってみようとなるのか。

「いくとびあ」は面白いと思い調べたが、やはり郊外型の、ある程度大きい駐車場が併設していて、気軽に行けるのがいいと思った。旧高田公民館跡地のスペースで駐車場をつくりながら施設もつくろうと思うと、現実的に、サイズの難しいと思う。

私がワークシートの1で考えていたのが、商店街ににぎわいを作ろうと思った時に、やはり必要となるのが、何台も止められる駐車場。門前町にある駐車場と、旧高田公民館跡地の駐車場を利用することで、両側から人を呼んだりできるような台数を確保できるのかなと思っている。伊佐須美神社の駐車場を利用して伊佐須美神社のお客様に商店街の方まで来てもらおうと思うと、よほど魅力のある店を作らないとなかなか歩かないと思う。そのような点も含めて駐車場であると考えますが、ただ整地して駐車場にするというと味気がなくなるので、その辺は工夫も必要。今後別なことに利用できるような形の駐車場にするのもいいと思う。

質問（事務局）

何かがあるから行くのであって、何かが無ければ誰も来ない。だから、何かあるということが前提の駐車場ということか。

意見（委員）

そう。町の中に人を呼び込むための駐車場という感じ。それが定期的なマルシェなのか、有名店を入れるのか、それともチャレンジショップのような形で徐々に中長期的に人を集めていくのかにもよるが。

質問（事務局）

駐車場の概念は避けて通れないので、まちなかのにぎわいを創出していくうえで、何かをつくったならば、車を停めるところとセットで考えないといけないということか。

意見（委員）

駐車場をまた別なことに利用できるような形でということも。

意見（事務局）

もちろんトイレも必要である。それと、雨風が凌げる何か。

先日、会津短大の学生が高田のまちなかを歩いた時に、攻略方法がないと難しいという意見があった。

意見（委員）

住み慣れている人であればわかるのだろうが、そう思う。

菓子屋や銀行など色々あるが、そこに用があるのであればそのお店が駐車場を持っているのでいいが、全体を歩いてみようとなるとなかなか難しい。そのお店にずっと停めておくのは申し訳ないし。

意見（委員）

コンテナを置くというのもすごく面白い考え。駐車場兼コンテナも少し置いてみてもいいと思う。施設をつくるには、スペース的に意外と広くない。先ほど他の委員の方から意見が出たように、周りも含めて開拓していくのであればいいのかなとは思う。

意見（委員）

私も現実的で申し訳ないが、子育てスペースというか、子育てサポートの部分で思ったところは、高田中学校から道路を広げるのであれば、町の方で、戸建住宅もしくは賃貸アパートを建てて、若い世代の新婚さんであったりカップルであったり、これから子育てをする方に、そこに住んでもらうのもどうかと思った。今、家を建てるのがすごく高くて、どうしよ

うか悩んでる方も多い中で、住む場所を提供してあげればニーズはあるというところも少し感じた。商店街の方ににぎわいをつくるのであれば、やはり来てもらえる人がいないと仕方がないと思うところと、最初のランニングコストよりも長期的な町への税収入っていうところもある。学校も近く、隣も金融機関。ただ、あの場所に何棟立てられるか。

しかし、やはり会津美里町というところで考えると、スポーツ施設や子どもたちが遊べる場所というのは本当にないので、プールや、コンテナを使って中を冒険できたり、色々なことができたりするスペースというのも必要なところではすごく悩んでいる。

意見（委員）

私は町民向けの使い方ができるといいと考えている。あやめの湯の利活用も今動いているが、そちらが観光向けと考えると、こちらは町民向けがいいと思う。

福島市にコムコムという施設がある。色々な学びの場所であって、プラネタリウムが入っていたり、研究できる場所があったり、体験ができたり、コンピューターを触ってみたりできる。一番は、私が子育て世代ということもあり、そのような場所があるといいと思った。

あとは、道の駅ふくしまの外にある子ども向けの施設に砂場があって、屋内の砂場なので、衛生的にもよく、そのようなものがあるといいと思う。

あと、噴水もすごくいいと思っている。そのようなものをつくるとすればやはりもう少し山の方の広い場所、例えばじげんプラザの前の空いてる場所とかで、大きく作った方がいいと思った。以前、他県にいた時に、町が運営してる魚を見られる無料の施設があった。そこに噴水のある水遊びができる場所があって、自由に入れるので、休日になると車がいっぱい子育ての人たちがみんな来てる場所だった。なので、そこで動物と触れ合えたりとかもできたら、すごくいいと思う。

意見（委員）

せっかく水が綺麗なので、水を生かせればいい。その辺の田んぼを50くらい潰して、屋外ステージと、芝生の公園と、バーベキューができるとか、子どもたちが夏に来ると噴水が出ていて水をくぐって遊ぶとか、本宮の水色公園みたいに滝があって、一日そこにいてのんびりできる場所。あとはちょっとしたアスレチックがあったりすれば、すごく集まってくる。この狭い場所では厳しいと思うが、将来的にそのようなのもあればいい。意外と会津にはそのような公園もあるような感じで無い。若松のドームのところにもちょっとした遊具の公園があるが、あれだけでものすごく人が集まってくる。

質問（事務局）

この場所だと、さっきの高田のエリアと関連性があった方がいいと思う。ここは、高校生とか学生とは別に、もっと子育てのような部分に特化したものの方がいいか。

意見（委員）

私はやはりターゲットをある程度絞って、まちづくりビジョンのようなものを考えた上で、統一感を持たせてやっていく必要があると思っている。本当にそこを学生でいっぱいにしようと思ったら、公民館の跡地もそれ向けのような発想になると思う。

意見（事務局）

ゾーニングという考えもあるので、ここのエリアの商店街は学生、ここは子育て施設ということで棲み分けもできる。さっきのタイムシェアの考え方もあると、昼間は小さい子ども向けだけでも、放課後になれば学生も来てくれるかもしれない。

意見（委員）

そこをうまく折り合いがつけられれば、本当は理想である。

だから、例えば私は先ほど駐車場と言ったが、それはあくまで商店街の中に観光客向けのにぎわいをつくるという場合にはそれが必要だと思っていて、学生向けであれば、駐車場があっても学生は必要ではないだろうし、学生向けのたまり場なれるような場所っていうのも必要だと思うので。

質問（委員）

先ほどの意見で出た有名店というのはどういうものか？衣食住どれに関わる部門？

意見（委員）

有名店と言ったが、今すでにお客さんがたくさん来ている2号店的な、そのような店でもいいのかなど。頭の中で考えただけだが。

今、自分の頭の中で、第1回のこの会議の時に議論していた、どういう向けのにぎわいをつくりたいかという部分に立ち戻っていて、観光客向けなのか、地元で根差したにぎわいなのか、学生向けのにぎわいなのかという部分で、私はそこを、ある程度統一感を持たせられればいいと思っている。

ただそれによって、跡地の利用の方法というの、分かれてしまうような気がする。それが全部達成できればいいが。

だから、町のビジョンというか、子育てに力を入れている町にしたいという思いがあるのであれば、子育て支援関係のそのようなものがあってもいいと思う。その辺が、どういう方向を向くかというところで、私も悩んでるところではある。

質問（事務局）

子育て世帯は、まちなかのこの場所に子育て支援施設があった場合、来ようと思うか。

回答（委員）

すごく魅力的な場所であれば、そこまで子どもを連れて行きたいと思う。駐車場がなくてもそこまで行きたいと思うような場所であれば、行くと思う。ただそれがどこに行ってもあるようなものであれば、近くに駐車場がないと行かない。

意見（委員）

冬は使えないようなものであれば、おそらく魅力が半減してしまう。これが全天候で雪が降っても大丈夫であれば、通年で誰かしらは来ると思う。

最初にこの会議が始まった時に、金を稼ごうという意思がすごく強くて、内循環するか外貨を稼ぐかどっちにするみたいな話で盛り上がっていたが、今は、もう金を一切稼がない、どちらかという、内貨でも外貨でもなく福祉の路線で進んでいるので、そこが大丈夫かというのは、もう一度確認したかった。

意見（委員）

その辺について、もう少し方向性を決めて議論した方が深まるかと思っている。それが今まだあやふやになっている状態なので、意見を聞きながら町の方で方向を決めるのかどうするかというところ。

説明（事務局）

これまでの会議で、外貨を稼ぐというような話もあったが、どちらかといえば居場所ということになり、コミュニティ。コミュニティは儲からないと思っている。外貨を積極的に稼ぐものではなくて、ここに居てよかったという満足度を高めるもの。そちらの方にシフトして来たというふうに思っている。観光客を呼んで、施設を建てて、有名なものがあって、ど

んどんやっっていこうというような視点もあったが、アンケートをとったり、皆さんと議論を重ねたりしていく中で、内向きの視点も大事という意見があったので。

コミュニティが不足してる人、地元にいる人を満足させつつ、それを外に見せて、来たい人が来ればというような視点。

その意味でここの施設をどうするかとなると、子育て世帯が必要だというものであれば、ここに駐車場と全天候型の遊べるようなスペースも用意する。そうすると、昼間の稼働率が落ちそうになると思うが、そこは、別の世代が使うかとか、観光客、駐車場とお店とトイレを用意してイベントをやったりすれば、お客さんも来てくれると思う。

意見（委員）

一時的なにぎわいにするのか、常ににぎわっておかせたいのかっていうことでも変わって来るのでは。

意見（事務局）

それだと、ファーマーズマーケットとして、ここに行けば必ず野菜があるとか、スーパーよりも質が高くて安くたくさん買える野菜があるとなると、子育て施設を組み合わせれば、お母さんたちがその野菜を買って料理するという組み合わせの方法もいけるのではないかと思う。「いくとびあ」はそのような施設なのか？

意見（委員）

いくとびあは、どちらかというと郊外型的な大きい施設で、中でクライミングができるような設備があるなど、規模が大きい。その小さいバージョンならできるかもしれないが、駐車場も必要となるとなかなか難しいと思う。

意見（委員）

小学校3～4年生くらいになると、ある程度親が離れてもYouTubeを見たりゲームをしたりして遊べるが、それより小さい子どもの場合は、家にずっといるのも嫌で、ギャング泣かれてるのをわざわざ喜多方や遠くまで連れて行くのであれば、この辺にとりあえず置いてちょっと解放されたいっていうのは、3～4歳になる我が子で自分が経験した。

そうであれば、その世代の人たちが安心できるような、町で子育てをしようという考え。先日、歯医者に行かない、いくら指導しても子どもを歯医者に連れて行かない親がいると小学校の校長先生と話した。どうしたら歯医者に行ってくれるのか。でもそこで兄弟全部そうだという話になり、それで、行かない親を責めるのではなく、そうであれば歯医者をお呼びという話にもなって来た。子どもには罪がない。親が駄目なのだが親を責めても駄目なので、歯医者を持ってきて歯を治してあげればこの子は町で育てた子になるという考え。将来やはり町に還元させたいと思うので、その循環をつくれなにかというのは、少し考えている。子どもたちは町で育てようというのであれば、この考え方が当てはまって、そうするとここで働きたいにも繋がるであろうと思う。

意見（委員）

町のビジョンとして、この町はこれに力を入れると言えば、福祉であれば福祉ということであれば、もしかしたらそれが人口の増加に繋がるかもしれない。

質問（事務局）

皆さんから見て、この町は何に力を入れてると思うか。

意見（委員）

「まるごといいね」ではなかったか。

意見（事務局）

中にいる人も、どこに力を入れてるかがわからないということか。

意見（委員）

敢えてそうしてこなかったような感じがする。

意見（委員）

例えば、本当に子育てに注力するというのであれば、この公民館跡地に子どもを楽しませる場所をつくって、親たちが商店街でちょっとお茶を飲む、ということもできると思う。何に力を入れるかによって、考え方も色々変わってしまう。

質問（事務局）

子育てというのを前面に打ち出すとしたら、公民館跡地の3,000平米は少なすぎるか。

意見（意見）

高田体育館のところにある「子育てネットワークぼけっと」がここに移転してもらうだけでも、十分子育て世代はほっとできるのでは。今はすごく場所的に悪いので。「めぐらざ」みたいなことになると大きな場所が必要だが、それだとそんなにスペースはいらないのでは。あとは面倒見てくれる人がいて、ちょっとした広場があって。

説明（事務局）

ここで結論は出ないので、アンケートの設問も、どこに絞ってというのは出ないと思う。子育て世代というところに置きつつ、駐車場や、ファーマーズマーケットのような直売所的な観点も必要だと思うので、そのあたりを三つに盛り込み、もう一度設問を作り直して、皆さんにその中から選んでいただき、アンケートに反映したいと思う。

意見（委員）

町長にも話を聞いてみたい。町長は、実際のところこの町をどういう方向性でいくと考えているのかという部分も踏まえて、我々も意見を出したいと思っている。この町はこれに力を入れていくというのがあれば、それに沿った商店街の考え方もあると思う。観光客をたくさん呼ぼうとしているのか、または子育てなのか。

説明（事務局）

町長もアンケートは常に目を通してている。

意見（委員）

その辺を擦り合わせしながらやっていければ、町が一体的になれるのでは。

意見（委員）

町の各面でこういうワークショップをやっている。一生懸命だという割には、上が出て来ないのに一生懸命が感じられないというのが、町民からよく聞かれる声である。やはり、一番上の人もたまに顔を出すのはいいことなのではないかと思っている。

意見（委員）

私は本当に、町の方向性を聞いてみたい。おそらく上の立場の方というのは、色々な人の意見を聞きながら方向性を決めていくのだろうが。卵が先か鶏が先かではないが。

説明（事務局）

本日の会議の意見を設問に組み込んだアンケート案をいくつか作成し、あらためて皆さんに送付するので、案の中から選んでいただき、多数決により内容を決定したうえで、1月にアンケート調査をしたい。

5. 委員長のまとめ

(委員長)

色々な意見をいただいた中で、事務局の方でまとめて、アンケートのたたき台を作るということなので、よろしくお願ひしたい。

事務局は時間がなくて大変なところがあると思うが、できれば資料は早めにいただきたい。その方が皆さんも意見を出しやすいと思う。

6. その他

説明（事務局）

次回は1月23日火曜日を予定。それまでにアンケートを実施して回答を回収しておきたい。結果を皆さんにお知らせする。

意見（委員）

ファックス等で出席欠席の確認があるといい。

説明（事務局）

了解した。

報酬については早急に支払いをしたいと思う。

本日の会議の内容も議事録として出させていただきますので、よろしくお願ひする。

7. 閉会

(副委員長)

これもちまして、第4回目の高田地域まちなかにぎわい創出協議会を終わります。ご苦労さまでした。